

優良事例1 V溝不耕起乾田直播技術

豊岡市内の集落営農組織は低コスト技術として、V溝不耕起乾田直播栽培に取り組んでいる。技術導入から9年目を迎え、おおむね技術が確立された。

内容

V溝不耕起乾田直播栽培は代かきで圃場を均平化し、土壌表面が乾燥した頃に、V字型の溝を切りながら^{もみ}糞を播種する方法で、同時に播種溝に施肥する。

現地では出芽を揃えるために、播種前に浸種し、播種後、土壌が乾燥する場合は走り水を行う。除草剤は出芽直前、入水前後の3回処理する。入水後は湛水状態を保ち、中干しは不要である。2013年度、60kg当たりの生産コストは10,096円に削減できた。

普及上の注意事項

栽培上のポイントは、適切な水管理で出芽揃いを促し、適期に除草剤を散布し除草を徹底するこ

とである。また、専用の播種機が必要で、経営規模に応じた機械導入を行う。



写真 不耕起乾田直播栽培の播種状況

平岡 幹朗（豊岡農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0796-26-3705）

優良事例2 直播栽培導入による経営改善

加西市内には64の営農組合組織があり、現在7組織が直播栽培に取り組んでおり、移植栽培と組み合わせて作業を分散し省力化を図っている。

内容

農事組合法人Tは2004年に湛水直播栽培を導入し、2006年から耕起乾田直播栽培に取り組み、現在は水稲栽培面積31haのうち11haを直播栽培している。

2012年の10a当たり収量は、カルパー湛水直播栽培が495kg、耕起乾田直播栽培が480kgでほぼ同じであった。耕起直播栽培は湛水直播栽培と比べ、玄米60kg当たりの生産費は8%削減、労働時間は50%削減でき、生産コストが下がった。

今後の方針

田面の均平化と十分に碎土を行い、出芽を安定させ、除草を徹底することにより、さらに収量を

高めることが今後の課題である。



写真 耕起乾田直播栽培の苗立ち状況

古田 智彦（加西農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0790-47-1448）